

山寺ふるさと便り =第25号=

宝珠のしずく

題字 後藤仁田(性相院)

発行所 やまでら館

〒999-3301 山形市山寺517-1
TEL 023-695-2001 FAX 023-695-2164

発行者 山寺地区振興会
編集 宝珠のしずく編集委員会

休石・お通り沢～芦澤峠(座頭峠)～山寺・地藏畑

山寺に仏教文化をもたらした歴史・古「山路」を楽しもう

山寺郷土研究会会員他参加者



見つけた!キノコ



ゆっくり、急がずにね!



芦澤峠から天狗岩を眺める



あら、ようこそ

芦沢じり 地藏畑にて



高瀬お通り沢維持保存会参加者他

「今から千百有余年前、円仁和尚(慈覚大師)が山寺に巡錫なされ、天台宗布教の学問所宝珠山立石寺根本中堂を開創なされた」と伝えられている▼「三千院本伝」には、円仁和尚(794～864年)の東北巡錫は、天長六、七年(829年～830年)と記録されている▼860年には、立石寺に時の清和天皇から十里四方の寺領と「立石倉印」を下賜されている(円仁和尚置文写他)▼円仁和尚は、先に開創した高瀬下東山「最上山風立寺」を立ち、休石からお通り沢沿いを登り、芦澤峠(座頭峠)で山寺の天狗岩を眺め、沢筋沿を下り、山寺地内に着き、喜びの読経をなされたという。この地は今地藏畑と呼ばれ、板碑が数基立っている▼円仁和尚は東方の南院台地へと進まれ、現在の対面石(岩塊)で、当時の山寺地主神・磐司磐三郎に御山譲りを請うた。釈迦ヶ峰下の岩洞で護摩供養、座禅を修し、山寺開山の端緒を開いた▼以後、休石・お通り沢山寺・地藏畑の古「山路」は、千百有余年後の昭和30年代まで、高瀬山寺の重要な生活道・作場道となってきた。しかし、昭和30年代後半頃からその道筋すら判別できないほど衰微の一途を辿ってきた▼令和元年、「山寺開山縁の山路を荒廃したままにしておけない」と、天童在住の原田忠幸さん、花輪輝美さんから提案を受けた。お二人を山寺郷土研究会会員に迎え、「荘内銀行ふるさと創造基金」の助成を申請し、「山寺に仏教文化をもたらした古山路」を蘇えさせる修復に取りかかった。2年後修復はかなったが、新型コロナウイルス禍の蔓延で大きなイベント実施に結びつけることはできなかった。しかし、山寺郷土研究会は令和元年10月、高瀬お通り沢保存会は令和2年10月にトレッキングを実施した。▼皆さん、新型コロナウイルス禍が鎮静化した暁に、是非開山古道を歩いてみて、山歩きの楽しさ・癒し、発見を実感してみてください。

山寺端山：宝珠山立石境内



今、漫画「山寺グラフイテ」(小学館発行)で、立石寺境内寺院に奉納されている『ムカサリ絵馬』が「死者がアノ世で結婚している」と、ちょっとした話題になっているという。

この『ムカサリ絵馬』奉納風習が、宝珠山立石寺で続けられてきていることは、私たち山寺に住まいしている者が誇りにすべき素晴らしいことなのである。人が亡くなったら「どうなるのか」は、私たちにとって最大の関心事である。この問いかけに的確に答えようと、多くの方々が、これまで、現在も、これからも探究し続けられる課題である。

死んでしまえば「それで終わり」と思っている方は極ごく少ないのではないか。殆どの人は「亡くなったから、どこかで生前より、よりましな暮らしがしたい」と願っておられるのではないかと思えてならない。よく「御迎えの来る歳になった」と耳

おさな こ

亡くなった幼子への親の愛しいおもい

「ムカサリ絵馬」奉納

山形県の各地に『ハヤマ』と呼ばれる山があることをご存知でしょうか。『ハヤマ』研究に造詣の深い千歳栄氏(元千歳建設社長)は、山形の千歳山、山寺の宝珠山立石寺境内の御山も『ハヤマ』だと見る。『ハヤマ』は、東北南部、特に山形に多い。

昇っていききたい」と、話す人もおられる。

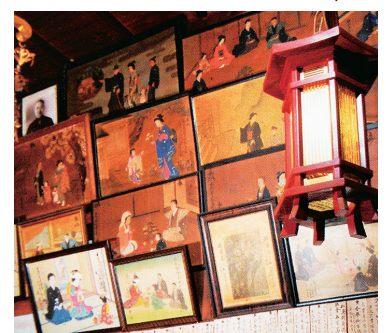


にする。亡くなると、阿弥陀如来が迎えに来て、遠い西方の彼方にあるという極楽浄土(あの世)へお連れしてもらいたいと思っているから、こうつぶやくのだろう。また、「亡くなったら、近くのあまり高くない、美しい山に登り、その頂から里に遺してきた家族を見守りながら過ごし、深山、天に

米沢笹野の羽山、長井の葉山、上山の葉山、村山の葉山、庄内では羽黒山を端山、由良の葉山等々。人里に近く、あまり高くもなく、美しい山容を誇っている『ハヤマ』と呼ばれる山がある。往昔、日本人は亡くなった人の死体を『ハヤマ』の山裾に捨てたという。死体は腐敗し肉が落ちる。その時、霊は肉体を離れ、『ハヤマ』と呼ばれる山に登ると信じた。

霊はこの『ハヤマ』の頂から住み慣れた里に遺してきた家族を33年間(49日間とも)、見守ってくれていると信じた。立石寺の御山(境内)に登った霊は、33年間を過ごし、よりましなくらしを求めて深山(月山)から天に昇っていく。里に残された家族は御山の頂を仰ぎ、先祖の霊に手を合わせ語りかけ、正月、春秋の彼岸、お盆に、ご先祖をお迎えし、供養を行って日々を過ごす。この『アノ世観』が『ハヤマ信仰』である。『死者の集う御山だ』とも言われてきた立石寺境内の御山は、正に『ハヤマ』なのだ。千歳栄氏は篤く語る。

『ムカサリ絵馬』は、こうした『アノ世観』の想いから、幼子を亡くし



た親や親族が、結婚適齢期になつた亡き幼子によりき伴侶が恵まれるようにと願い、愛しさを込めて奉納したものであろう。立石寺の御山(境内)には、幼子だけでなく、亡くなった多くの方の縁の品も奉納されている。

『ムカサリ絵馬』は、山寺での『仏教文化』と『土着ハヤマ信仰』が合わせた姿の一つである。

千百有余年前、円仁和尚(慈覚大師)が高瀬風立寺を立ち、お通り沢を辿り、山寺をめざした。南院の台地と立谷川を挟み対峙する霊気漂う御山に、ここそが天台宗布教の拠点に相応しいとの想いで、地主神磐司磐三郎に御山譲りを請い、宝珠山立石寺を創建したと伝わっている。

千手院観音御開帳延期

新型コロナウイルス感染症のため子年御開帳が一年延期され、令和3年5月1日から10月31日までに実施される。

新型コロナウイルス禍の鎮静を祈願するご参拝を、是非。